

授業科目名 (英文名)	工学倫理 (Engineering Ethics)	科目区分 対象学生	
単位数	2.0	開講年次・ 学期	2 年次・前期
担当教員	本多 信一 磯川 悌次郎	所属	工学部 電気電子情報工学科
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	<p>講義目的： エレクトロニクスを中心とした情報科学技術が急速に進展している状況で、電気系の技術者として社会に対する役割や所属組織の経営理念と工学技術との関連性などについて考察し、人間関係も踏まえて技術者としての倫理観を養う。</p> <p>到達目標： 電気系の技術者として社会に対する責任とは何か、を理解し、具体的な課題について自分自身の問題として説明できること。</p>		
講義内容・授業計画	<p>科目の位置付け、教育内容・方法： 技術者は“ものづくりをする”という特徴を有しており、特に電気系技術者は家電製品を始めとする多種多様な工業製品を生産している。これら製造製品の設計、品質、性能、あるいは管理などから“ものづくり”ということを通して工学技術者の社会に対して負う責務とはどのようなものかを、実例をもとに学習する。</p> <p>授業計画： 1．履修ガイダンス及び序論（工学倫理とは何か、何ゆえ学ぶのか、倫理綱領概要他） 2．製造物の管理（企業の社会的責任、製造物責任他） 3．技術の権利化と企業秘密（特許権他） 4．技術者の責任に関するグループ討議 5．技術者の責任に関するグループ討議とプレゼンテーション-レポート作成(1)- 6．事例を題材としたグループ討議 7．事例を題材としたグループ討議とプレゼンテーション-レポート作成(2)- 8．組織のリスク管理と技術者のモラルハザード 9．組織のリスク管理、内部告発 10．安全と設計（経費、期限との狭間他） 11．事例を題材としたグループ討議 12．事例を題材としたグループ討議とプレゼンテーション-レポート作成(3)- 13．情報工学関連事例1（最新情報セキュリティ-人-）講義資料配布 14．情報工学関連事例2（最新情報セキュリティ-運用-） 15．情報工学関連事例3（最新情報セキュリティ-技術-）-レポート作成(4)-</p>		
テキスト	梶谷，工学倫理・技術者倫理，アグネ技術センター		
参考文献	「はじめての工学倫理[第3版]」齊藤了文，坂下浩司著（昭和堂）， 「オムニバス技術者倫理 第2版」オムニバス技術者倫理研究会 編（共立出版）， 「新・技術者になるとのこと～これからの社会と技術者～」飯野弘之著（雄松堂出版）， 「技術倫理1」C.ウイットベック著、札野他訳（みすず書房） その他多数		
成績評価の基準・方法	受講姿勢（毎回の積極的な議論への参加及び小テストなどで計40点）及び4回のレポート（計60点）の合計100点満点で成績評価する。合計60点以上を合格とする。		
履修上の注意・履修要件	工学技術者としてどう在るべきかを自分自身の問題として捉えるよう、意見発表など積極的に授業に参加する事を望む。		
実践的教育	該当しない		
備考	社会的観点からの倫理観と専門知識からの倫理観 多種多様な分野に対応できる能力		